

2023年度

卒業研究中間審査

アクティブラーニングを用いる 講義の雛形の考案

須田研究室

2032107番 土屋勇太

1. はじめに

背景

- ◆大学：研究を通して論理的思考力や課題発見力・解決力などを身につける場
- ◆社会的変化が加速
 - 文科省：「生きる力」の教育を推進
 - 経産省：「人生100年時代の社会人基礎力」を提唱
- ◆アクティブラーニング(AL)：主体的に学ぶ学習方法の総称

問題

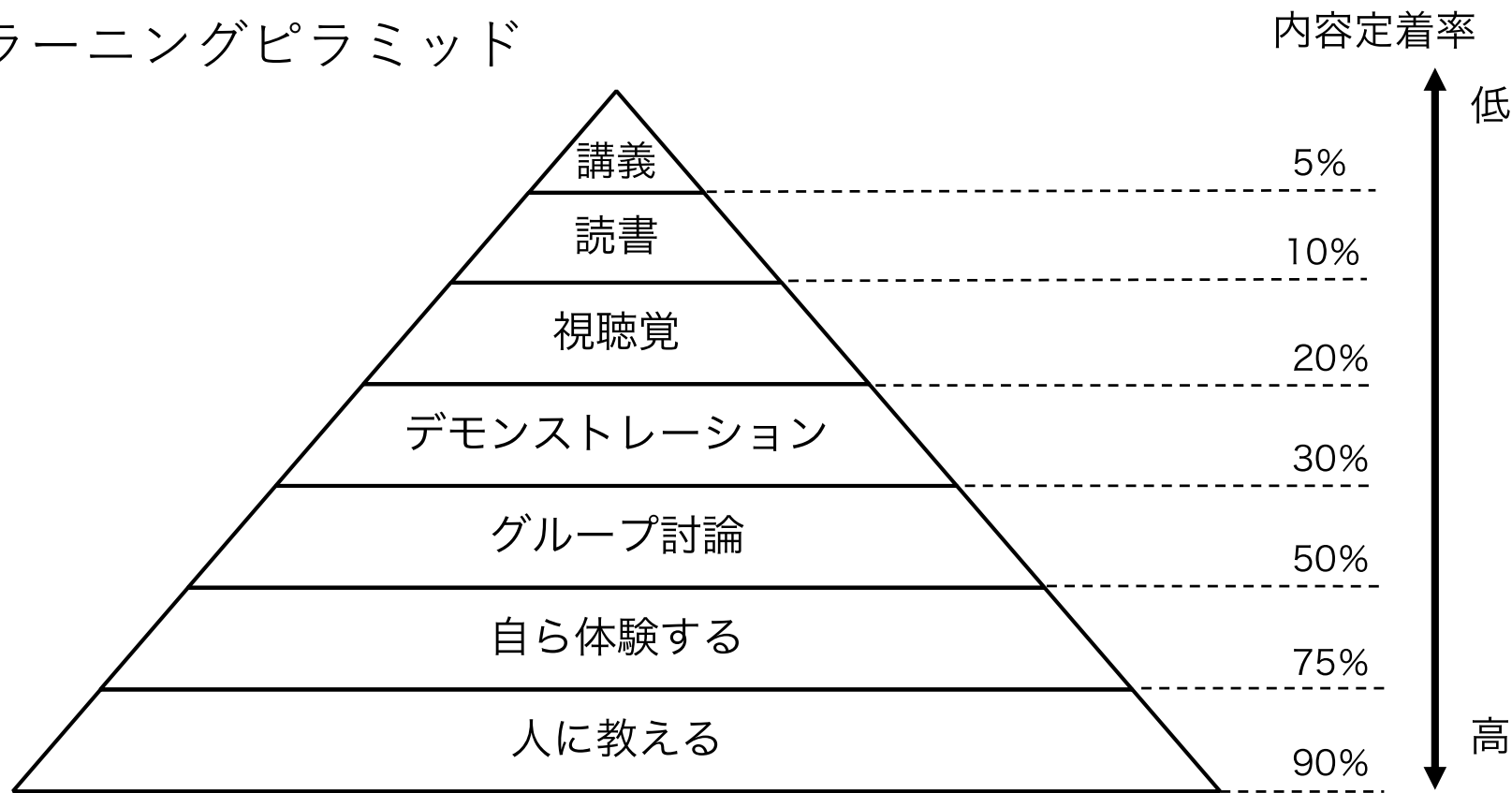
現在大学で実施されているALでは学びへの主体性や課題発見力などの能力を養うことができない

目的

学びへの主体性や課題発見力などの能力を養える講義の雛型を考案

2. アクティブラーニングの問題点

ラーニングピラミッド



3. 研究の構成

ALの目標とする能力から身につけるための要素を考えた

大学でALを実施する際に目標とするべき能力	必要な要素
主体性	目標の設定・グループ活動・進行方法や手順の確認
論理的思考力	討論・調べ学習・発表などのアウトプット
課題発見力	討論・調べ学習
課題解決力	図や表の作成・発表などのアウトプット
事前準備	最低限の知識・技術の講義
振り返り	自己評価・相互評価・外部評価

今後は上記要素を取り入れ組み立てることで
講義を構築，考案する

